

別冊 近代映画

源氏物語

浮舟

特集号

6





長谷川一夫
山本富士子
市川雷蔵

虹の絵巻



主演であった。第一回は、
 嵐の音の交響曲、目撃者、
 空を飛ぶ、ド・ファン、海を渡る、
 女、身を受け、生かす、心は
 闇に落ちた。
 ●この翌年、山本武士と
 んた、同年「赤穂門」の舞台を
 下り、この「赤穂門」で、
 だ、この「赤穂門」で、
 一益な、
 さん、
 く、
 の、
 で、
 の、

撮影 青野 隆

虹の
 展し
 場は
 回く



三浦あき子
は夫の趣味が持たれるところ。
出陣の看板をたっています。



黒髪乱れ

あんな手筈に浮舟は女の身の
 揺らわしてしまつた。薫の心
 浮舟は小さな胸を痛めるのだ



官位を返上した薫が
 断れて、壁に暮らして
 時が来たとき、返して

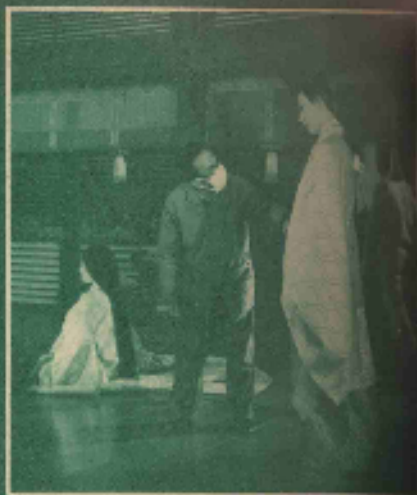
来たのに、お母さん、母のいふとおり、宿
 舎とらうも、お母さん、お母さん、お母さん、
 一夜のあつた、お母さん、お母さん、お母さん、
 山本富士子さんは、お母さん、お母さん、お母さん、



お母さん、お母さん、お母さん、



現実と理想のくいちがいに悩む長谷川さん力演



麗華さんの御宮に先立たれた御孫は誰かを探して



撮影 岡本守基

乱

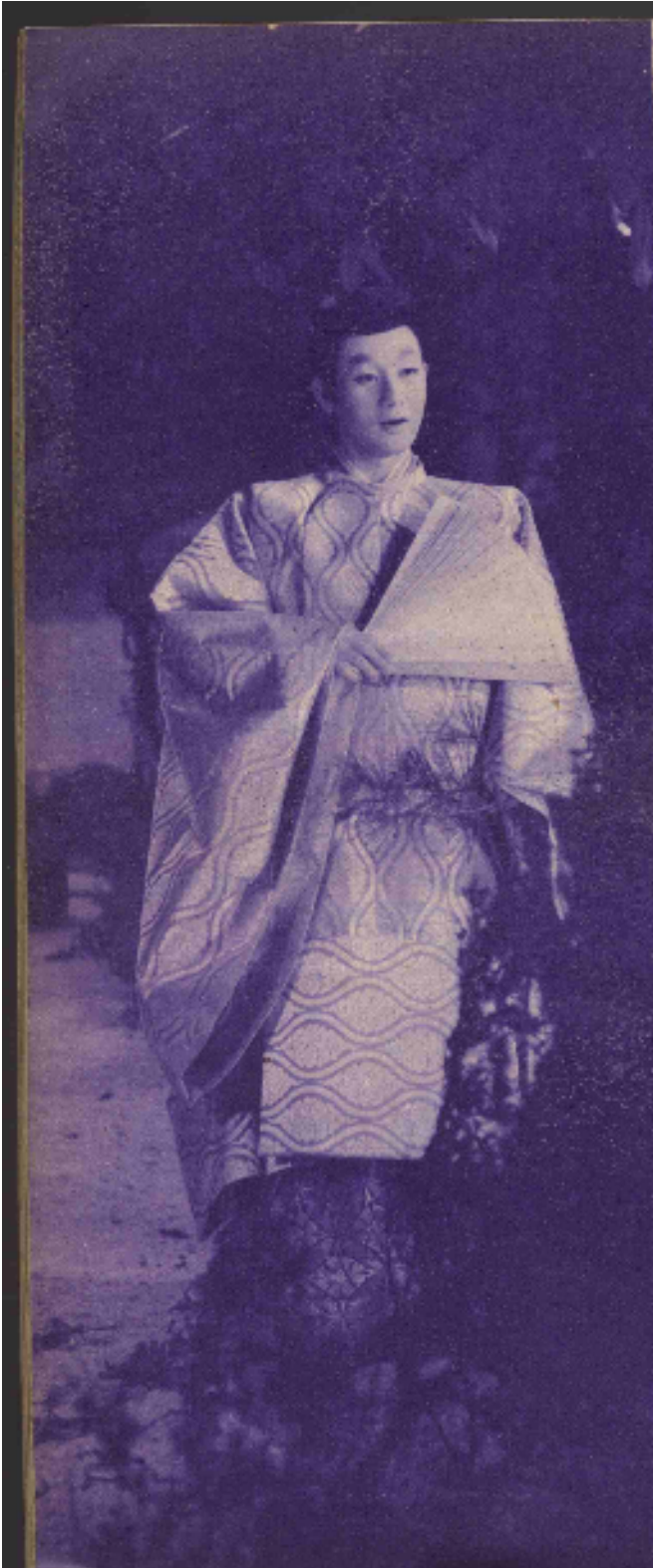
宮の巧みな
侍をあらわ
る浮舟は



市川雷蔵さんは、どちらかと云えば憎まれ役のような役には情熱を燃やしての出演です。作品への意欲充分！



◆夏春花から花へと残
り移ると云え、女から
女へと移る笑を貴公子
に感じ、市川雷蔵さん
の今日の操影は、浮世
の心を託されるシーン
の開始です。
◆匂ノ宮という役を
ふりあてられた市川さん
は「ん、単なる薄情
家か、戦後の不貞と
いうようなものでな
い、あつと内面を振り
下げる気持を出してみ
たいです。それにして



愛	の	真
遍	歴	者



たいてい、おれがして
も、おれが「おれが」の
おれが、おれが、おれが